

原稿作成上の注意

(2018年5月改定)

【横書き原稿の場合】

1. 原稿用紙と書き方

- (1) 原稿は、A4用紙に横書きで作成する。
- (2) 上下左右の余白は約2.5cmとする。
- (3) 原則として、文字は12ポイント、行間はダブルスペース（12ポイントフォントで1ページ25-28行）とする。図・表の挿入箇所などの指示は、文書ファイル内で行ってはいけない。
- (4) 本文および表で用いる書体は、和文フォントではMS明朝、英文フォントではTimes New RomanあるいはTimesとする。ギリシャ文字やキリル文字などの特殊文字はTimes New Romanなどの英文フォントを使用する。
- (5) 原稿にはページ番号と第1ページ1行目から連続した行番号の両方を付ける。

2. 文書と文体

- (1) 和文は口語常体（だ・である体）とし、現代かなづかいを用いる。固有名詞で読み誤るおそれのあるものには漢字にひらがなのルビをふるか、漢字の後に丸括弧で括ったふりがなをつける。
- (2) 固有名詞や学会で慣用の語句を除き、常用漢字を使用する。
- (3) 数字、アルファベットおよび括弧などの記号は、原則として半角文字を用いる。
- (4) 年号、月日およびその他の数字には、原則としてアラビア数字を用いる。年号は原則として西暦とするが、和暦など他の年号を用いた場合は、その後に括弧で西暦を示すこと。
例：元禄10年（1702）。
- (5) 句読点は全角の「,」と「.」を用いる。
- (6) 学名の表記はイタリックとし、学名に対するイタリック（慣例：1本の下線）などの指定は著者が行なうものとする。

3. 原著論文の体裁

原稿の体裁は以下の(1)から(6)の順とする。本文に対する注は通し番号をつけて本文の最後にまとめ、脚注は使用しないこと。

(1) 表題

原稿第1枚目

論文の種別（本論文／総説）、表題、著者名、和文所属・所在地、和文キーワード(3-5語)、英文表題、英文著者名、英文所属・所在地を書く。

e-mail アドレスの記載を希望する場合には、corresponding author の姓名とそのアドレスを英文所在地の後に記す。

(2) 英文要旨（Abstract）と英文キーワード、和文要旨

原稿第2枚目には400字以内の英文要旨（Abstract）を記し、要旨の下に3-5語程度

の英語のキーワードをつける。英文は著者の責任において正しい英文にして提出する。

また論文の内容を簡潔にまとめた 400 字以内の和文要旨をつける。

(3) 第 3 枚目以降

本文は第 3 枚目から書き始める。順序は以下のとおり：本文，謝辞，引用文献，図の説明，図，表。

ただし，表と図については，たとえ図や表が小さくても，複数の場合にはそれぞれを別の用紙に書く。

(4) 謝辞

研究助成金等の記述については謝辞に述べる。

(5) 文献

4. その他の原稿の体裁

原著論文の体裁にならない，以下の(1)から(4)の順とする。

(1) 表題

原著論文と同じ。

なお，和文要旨は，必要に応じてこれをつけることができる。

(2) 第 2 枚目以降

原著論文(3)と同じ。

(3) 謝辞

原著論文と同じ。

(4) 文献

5. 文献の引用

本文中で連記する場合は，まず年代順，次に著者名のアルファベット順とする。

また，3 名以上のものについては「一ほか」または「-et al.」とする。

6. 文献

(1) 本文ならびに図表中において引用した文献は本文末に一括し，著者名がアルファベット順となるように配列する。著者が何人いても略さずにすべて書くこと。

(2) 雑誌名は和文誌・欧文誌とも略さずに全部書く。同一著者による論文は年号の古い順とし，同年の論文については年号の後に小文字のアルファベット (a, b, ...) をつけて区別するものとする。巻・号の表記は，6(4)のように書く。

(3) 文献は本文および図表中に引用されたものに限り，かつ引用されたもの全てを掲載しなくてはならない。

(4) 文献は下記の例にならって掲載すること。

①和文書籍

岡田篤正・東郷正美 (編). 2000. 近畿の活断層. 395 pp. 東京大学出版会, 東京.

清水大吉郎. 1996. 古典にみる地学の歴史. 174 pp. 東海大学出版会, 秦野.

②和文書籍の一部

山下善平. 1999. 冬を越す. 里山の昆虫たち その生活と環境. pp. 119-132. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

中井秀樹. 2003. アブラナ科. *In*: 清水建美 (編). 日本の帰化植物. pp. 80-96. 平凡社, 東京.

③雑誌に掲載されている和文論文

尾崎正紀・松浦浩久・佐藤喜男. 1996. 神戸層群の地質年代. 地質学雑誌, 102: 73-83.

④英文書籍

Higo, S., Callomon, P. and Goto, Y. 1999. Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-Bearing Mollusca of Japan. 749 pp. Elle Scientific Publications, Yao.

⑤英文書籍の一部

Waller, T. R. 1998. Origin of the Molluscan Class Bivalvia and a Phylogeny of Major Groups. *In*: Johnston, P. A. and Haggart, J. W. (eds.). Bivalves: An Eon of Evolution. Paleobiological Studies Honoring Norman D. Newell. Univ. pp. 1-45. University of Calgary Press, Calgary.

⑥雑誌に掲載されている英文論文

Matsumoto, T., Morozumi, Y., Bando, Y., Hashimoto, H. and Matsuoka, A. 1981. Note on *Praviticeras sigmoidale* Yabe (*Cretaceous heteromorph ammonite*). Transactions and Proceedings of the Paleontological Society of Japan. New Series, 123: 168-178, pls. 22-26.

7. ホームページ等について

Web 上で公開されているホームページなどの参照・紹介については文献欄の後に「付記」としてホームページアドレスおよび最終確認日を掲載するものとする。

ただし、公表年が明らかで論文・報告書等が PDF 形式のようにページ数が確定した形式で公開・出版されている場合には、一般の文献と同様に本文中で引用の上、文献欄に掲載し、ホームページアドレスを角括弧[] (ブラケット **bracket**) でくくって各文献の最後に示すこと。

なお参照・紹介は、受理の段階でアクセスできるホームページに限る。

8. 図表

(1) 図表は本文中に入れずにそれぞれ別用紙に書く。

(2) 図表はその下に通し番号を付ける。図表の説明文 (キャプション) は、図表ごとに別紙にまとめ、本文の後に付ける。説明は、和文または英文で記述すること。両者を併記することもできるが、いずれかのみを使用する場合は、一報文中では統一をとること。また図表中の使用言語は著者の判断に委ねられる。ただし、この場合も一報文中では統一すること。

(3) 原図の大きさは原則として A4 版までとする。

(4) 写真・図版等の掲載に関する許諾は、電子化および複製し、公衆送信することを含め、投稿者がとること。

(5) カラーの図について
紙冊子はすべて白黒となる。

9. 投稿について

投稿者はA4判の原稿を2部作成して投稿する（コピーでよい）。その際、原図・表は手元に保管し、コピー（鮮明なものに限る）のみ原稿に添付する。原図・表は、原稿が受理された後に送付すること。

電子投稿にあたっては、原則としてMicrosoft Office Word, Excel, Adobe Photoshop, Illustrator もしくはPDF ファイルをDVDなどに保存して送付すること。あるいは、すべてのファイルの合計が3MB以下の場合、電子メールの添付ファイルとして送付する。原稿は返却しない。